

このため眠っている資料の公開を強く望んで参りました。

こうした意味から、このほど本会が「航空に関する情報資料の収集管理活動」の一環として企画された「航空ジャーナリスト協会ニュース」の創刊は、まことに時宜を得たとりくみとして賛同を惜しみません。

情報収集の基本である「有力な触角」が増えるわけです。

たまたま、私どもの待望してきた航空博物館構想が胎動するやに伺っていることから、両々相まって、わが国経済の高度成長に寄与された広範囲の先輩方の正確な足どりが、文化遺産に加えられるのを期待して、お祝いの言葉にしたいと存じます。

日本航空 広報部長

渡 会 信 二

もはやいかなる国も、孤立して存立することの許されぬまでに国際化された今日の世界で、実際にその国際交流を果す足として、航空の役割は不可欠のものとなっている——と航空界に身を置く者なら誰も考えているでしょう。国際航空ばかりでなくこの狭いわが国の中でさえ政治、経済、文化の地方化とともに国内交流のネットワークも張りめぐらされ、われわれ日常の身の回りを見回しても、航空の果している役割はいや応なく目にはいる、いまや航空は交通の主流としてばかりでなく、経済界の中で重要な基幹産業としての地位を占めている——と私たちは考えています。さらに航空機の美しさは機能の極致の表現である、航空機には最先端の技術の粋が集められている——と私たちは自負しています。

しかし一步航空界を出ると、人びとは私たちが思ったり期待したりしているほどには、意外に航空を理解してはいないのに驚かされます。航空はますます発達しなければならないのに、そしてそのためには広く一般の理解と支援が必要だということに、こうした状況は誠に歯がゆく残念なことです。同時に航空ジャーナリストといわれる方たちの使命の重要さを改めて思い知らされます。こんどその航空ジャーナリストの集りである航空ジャーナリスト協会で会報を出されることになったということは、そうした状況を航空人相互で認識し合い、また一般への啓蒙についても語り合う場として大へん意義のあることと思います。

意表をつく誌名には驚かされましたが「大空」を愛する航空人がペンをもって通俗に堕さぬ航空の理念を表わすものとしてふさわしいものであり

ます。またタイトルは内容次第でおのずから独自の意味を帯びるものですから、こんど同人の方がたの実力で、この誌名に光輝ある性格をもたせられることを確信をもって期待申し上げております。発刊おめでとうございます。

東亜国内航空 広報室長

麦 倉 利 司

このたび、航空ジャーナリスト協会が、機関紙をご発行の運びとなりました事を心からお祝い申し上げます。

貴協会が産声をあげられました昭和55年以来、民間航空輸送は依然として低空飛行を余儀なくされ、当社も勿論のこと苦戦苦闘している現況であります。しかしながら、我が国の民間航空は、戦後再開以来皆様のご支援を得て着実に伸びており、ここ数年の停滞もいずれ再び前進することは間違いないところであります。東亜国内航空も合併以来十余年、前身の会社から通算すれば30余年を経過し、今や1千億円を売上げる企業として成長いたしました。これも偏重に皆様方のご支援の賜と深く感謝いたしております。当社の生い立ちは、貴協会の皆様のご承知のとおり、我が国民間航空史そのものと言っても過言ではない程の変遷を経ておりますが、これら航空の歴史を正しく後世に伝えと共に、新しい航空界の在り方、方向を探り、航空界の一層の発展の為に貴協会の果す役割は誠に重大と確信いたしております。内外とも厳しい環境にあって、新しい門出をなさる貴協会の熱情と努力が何時の日か大きな果実を結ぶことを期待してやみません。

全日本空輸株式会社

広報室長 近 藤 宏 彦

昭和57年12月で、全日空も創立30周年を迎えました。人間で言えばようやく30代の成年の域に達したわけです。

今世紀に誕生した航空は、他の交通機関にくらべればまだまだ歴史は浅いと言えるかもしれません。しかし、その間での技術革新と航空サービスの飛躍的な発展は、まことに目を見張るものがあります。その航空の開拓時代から現在にいたる迄の発達の歴史を、同時代感覚で新鮮によみがえらせることができればと思います。

また、現在の航空界のさまざまな出来事を、適確にとらえ、これを一般の人にわかりやすく説明できればと思います。

これらの役目を、航空ジャーナリスト協会が引受けてくださればと、大いに期待しています。